

## 日本災害看護学会先遣隊 令和6年能登半島地震活動報告

2024年1月4日(木)

活動隊員：酒井彰久、河原宣子、野島敬祐、佐藤大介

### 1. 活動日時

令和6年1月4日(木)

### 2. 活動場所

珠洲市健康増進センター、珠洲市役所

### 3. 被害状況

2024年1月1日午後4時10分ごろ、石川県で最大震度7の地震発生。震源は、石川県能登地方輪島の東北東30km、地震の規模はマグニチュード7.6(速報値)。北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型。同日午後4時22分、石川県に大津波警報発令。1月3日までに震度1以上の余震は300回以上発生している。約2万9540戸停電。輪島・珠洲・能登で発生した火災は鎮火している。

人的被害：石川県死者73名、倒壊による生き埋めなど安否確認中(4日7時現在)

住家被害：建物全壊146棟、半壊20棟、床上浸水6棟、床下浸水5棟(4日7時現在)

道路被害：穴水町、能登町、輪島市、珠洲市における国道・県道の多数にひび割れ、地割れ、隆起があり片側交互通行となっている。

### 4. 天候

曇り時々晴れ 最高気温8℃ 最低気温5℃

### 5. 活動の実際

3日 【河原・野島】4日1時金沢出発、【酒井・佐藤】3日23時40分福井出発

23:40 穴水町・輪島市・能登町・珠洲市では、道路(県道1号線など)の陥没、ひび割れ、隆起など多数発生、片側交互通行となっている。また支援に向かう車で渋滞が発生している。センター到着後仮眠・休憩をとる。

珠洲市健康増進センター到着【河原・野島】4日5時30分、【酒井・佐藤】4日7時

4日 【珠洲市健康増進センター・保健医療福祉調整本部】

8:00 情報共有事項

1.避難所数が32ヶ所から現在50カ所(4日8時現在)となっている。避難者数も6700人から7688名となっている。調整本部で把握できていない避難所も各地域で新たに設置されている可能性がある。

2.自衛隊から給水車5t車が5台入る予定である。また避難者用の仮設入浴も設置されることとなった。予定地は上戸小学校グラウンドに設置となる。小学校200名、隣接の保育所200名の被災者が対象となる。また食材も400名分の供給予定である。

3.市では飯田高校や正院小学校、緑ヶ丘小学校など6カ所のみ避難所を回っている。支援に来てもらった部隊には、現在回っていない40カ所以上の避難所に行ってもらい、主な担当者や医療的なニーズ等の把握をお願いしたい。

4.救援物資は、一旦県民体育館に一括で備蓄・管理し、その後必要な箇所に必要な分を配分する方式を取る。管理は日赤をお願いする予定である。

【酒井・佐藤】 蛸島小学校・蛸島保育園・元気の湯を巡回

蛸島小学校：小学校および体育館合わせて夜間は 750 名が避難、校庭には 50 名ほどの車中泊であった。避難者の中には、看護師の資格を持つものが数名おり被災者の高齢者を中心に慢性疾患や内服薬の有無を確認していた。水分の不足、腰痛を訴える被災者への湿布の貼付を希望された。トイレ環境は、衛生物品が不足しており、早急な物品の補充が必要である。車中泊をされている方々には、エコノミークラス症候群のリスクが高い。適切な飲水や軽度な運動を促す必要もある。また高齢者が非常に多いため、内服薬の確認だけでなく、生活不活発病や災害関連死を予防するような対応が求められる。

蛸島保育園：約 130 名が避難している。日中は自宅に戻っている人もおり、避難所内にいる被災者は少ない。小学校と同様に水分や新生児用のおむつやミルク等が不足している。食事は避難住民のプロパンガスを使用して準備している。食材は少ないため 2 食/日となっている。保育所内のトイレは、高齢者及び女性を優先として、男性は基本的に屋外の仮設簡易トイレを使用することになっている。

元気の湯：小学校及び保育園に入れなかった避難者が、自主的に避難したとの情報を得た。昨晩は 28 名が避難をしていたとのこと。食事については、保育園の避難所で対応しているとのこと。11 時 30 分ごろに施設を巡回したが不在であった。

12 時 45 分本部に戻り、午前中の巡回状況の報告後昼休憩となった。

【河原・野島】 三崎中学校、引砂集会所、金沢大学能登学舎の巡回を行なった。

三崎中学校：食料と水が不足している。ラジオもなく情報が入ってこない。外部支援の受け入れが初めてで、住民での自助・共助で避難所運営を行っていた。住民が持っている発電機と井戸水で生活を凌いでおり、近隣の寺院で排泄を行っている。公的な支援が全然入ってこないことに対して、住民の不安や不満が高い状況である。

引砂集会所：小規模なコミュニティで、なんとか避難所運営を行っていた。自宅にあった食材を共有しながら対応していた。情報が上がってこないことに不安を感じているが、健康問題などは現在のところ問題はない。区長が元救命士であり、全体をうまく管理している。

金沢大学能登学舎：250 名程度の避難者がおり、1F に ADL が低い被災者を配置し、2・3F には自立している被災者が配置されている。要配慮者（妊婦や幼児・児童など）がいたが、住民同士で協力し合いながら支援をしていた。夜間の睡眠は臥床して寝られる人もいるが、机に突っ伏して寝る方もいる。内服薬に関しては今の所は問題なし。水と食料に関しての物資は供給されている。車中泊の人数は多く、どれくらい的人数か把握されていない。

13：30 【酒井・佐藤】 みさきデイサービスを巡回した。

みさきデイサービス：施設には誰もおらず、不在であった。

14 時 50 分、本部に戻り状況を報告し本日の活動は終了となった。

【河原・野島】 旧本小学校を巡回した。

30 名程度の高齢者が避難していたが、健康状態などは問題なし。日中は自宅の片付けをするために、避難所を不在にしている避難者が多い。

14 時 40 分本部に戻り状況を報告し本日の活動は終了となった。

16：00 【珠洲市健康増進センター・保健医療福祉調整本部】

本日巡回した 12 か所の避難所状況について各団体から報告を行った。避難所環境が劣悪ではあるが、昨日よりも改善しているところもある。本日より福井県の合同チームが入り、明日より避難所運営のサポートに入る予定である。また、物資も徐々に入ってきており、管理を浜松市が行っていくが分配方法については検討する。また、明日より DMAT と日赤救護班が入る予定であり、巡回診療を行ってもらう。避難所で亡くなったという報告があり、災害関連死が発生している状況である。災害関連死を予防するためにも、避難所のアセスメントとともに個人のアセスメントも行っていく。

## 6. 考察

令和 5 年 5 月に発生した能登地震と比較すると、家屋が全壊している被災者が多くおり、避難所を利用する住民が非常に多い状況である。各避難所には、珠洲市の職員が介入できておらず各地域の住民の自助と共助で成り立っている。避難所環境は、ライフラインや物資の供給も少ない状況の中で、管理担当者を中心に必要最低限の運営がされている現状である。特に多くの避難者を受け入れている小学校では停電・断水・物資不足がありながらも、住民で助け合いながら避難所運営にあたっていた。一方で避難所の中には、被災者の受け入れ人数が対応範囲を超えている避難所も見受けられる。避難所の生活環境やトイレ環境の劣悪さは前日と同様で、早急に外部から人的・物的資源を投入する必要がある。また自宅の被害が少なく、在宅避難をされている被災者も存在する。在宅避難されている住民が、水分や食料を求めて避難所に来て、食料の提供を希望される方々もいる。避難所環境の調整だけでなく、同時並行で在宅避難者の健康問題や生活環境の把握も必要となる。当面は設置された避難所の運営管理及び被災者の生活環境問題に対する支援が優先となるが、度重なる余震と雨による地盤の緩み、道路の亀裂や陥没で自家用車による避難所移動が困難となる。関連省庁から発信される最新情報を確認した上で、安全を確保した活動の継続が求められる。

発災後 72 時間を超えており、被災者のストレスが増強する時期でもある。災害関連死が発生したという報告もされており、基礎疾患の増悪、寒さ対策、一酸化炭素中毒やエコノミークラス症候群予防が必須であると考えられる。現在は、安否確認の時期であり、超急性期であるが、被災者に対する支援を長期的な視点で考えながら、切れ目のない継続的なサポートが重要である。

7. 参考写真



閉鎖した保育園の遊具を利用したトイレ



炊き出し用品



車の通行ができない橋



崩壊した塀